

## 令和元年台風19号における住民からの問い合わせに対応する「LINE」AIチャットボットと災害状況を共有するためのシステムを提供

AI防災協議会(理事長:江口 清貴)は、令和元年台風19号における住民からの問い合わせに対応する「LINE」AIチャットボットと、災害状況を共有するためのシステムを、関東エリアにおいて提供することをお知らせいたします。

### 【住民からの問い合わせに対応するAIチャットボット】

#### LINEアカウント名称:「令和元年台風19号対応」

LINEのアカウント「令和元年台風19号対応」を通して、住民が入力した問合せに対し、AIが会話形式で応答することで、災害復旧・生活再建(物資確保や被害認定、罹災証明など)に必要な情報を提供します。必要な情報を24時間いつでも提供することで、被災者のニーズに即した支援を行うこと、行政窓口の混雑緩和を図ることを目指します。

本AIチャットボットを通して得られた情報は、神奈川県鎌倉市、茨城県ほか、関東エリアにおいて本取り組みに参画いただいた自治体に提供し、災害対応に活用いただく予定です。

本AIチャットボットはAI防災協議会が提供しており、主に国立研究開発法人防災科学技術研究所、株式会社ウェザーニューズ、LINE株式会社が共同で開発しております。



「令和元年台風19号対応」LINE公式アカウント  
友だち追加 QRコード



### 【災害状況を収集するための情報共有システム】

#### LINEアカウント名称:「RiskMap\_Japan」

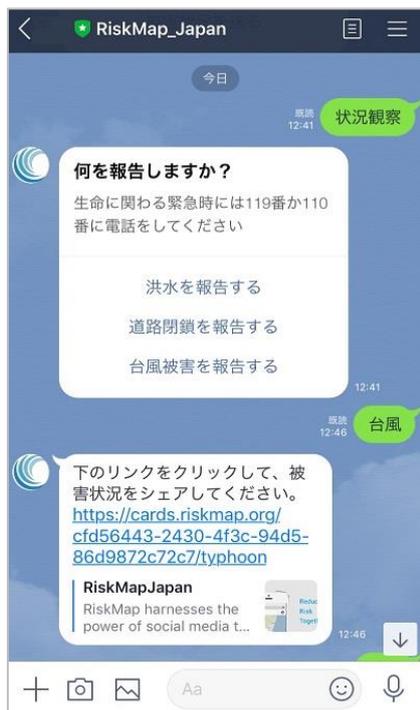
LINEのアカウント「RiskMap\_Japan」を通して、住民が災害現場に関する情報を送信し、それらの災害情報が地図上に集約して表示されることで、住民が把握している災害情報がリアルタイムで共有されます。

本システムは、住民間での情報共有を行うことを目的としており、本システムを通して得られた情報は神奈川県鎌倉市ほか、関東エリアにおいて本取り組みに参画いただいた自治体に提供し、災害対応に活用いただく予定です。

本システムは、現在AI防災協議会において、主に米国Urban Risk Lab, Massachusetts Institute of Technology(マサチューセッツ工科大学アーバンリスクラボ)とLINE株式会社が主導で開発していたシステムで、今回の台風を受け急遽社会実装にむけた実証実験を行うこととしました。

<被害状況の登録>

<地図上での確認>



「RiskMap\_Japan」LINE 公式アカウント  
友だち追加 QR コード



※「RiskMap\_Japan」使い方など詳細についてはこちら <https://ai-bousai.sakura.ne.jp/news/20191011.php>

これらの取り組みを通して得られた知見は、AI 防災協議会が開発を進める「LINE 版防災チャットボット『SOCDA\*1』」への集約、その先の SIP4D\*2 への連携のために活用し、より災害に強い社会基盤の構築を目指してまいります。

\*1 SOCDA:「対話型災害情報流通基盤」

通称 SOCDA = SOCIal-dynamics observation and victims support Dialogue Agent platform for disaster management

国民一人ひとりの避難と災害対応機関の意思決定を支援するチャットボット。

NIED、NICT、WNI が、LINE の協力を得て、研究開発を実施している。

内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導する戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期「国家レジリエンス(防災・減災)の強化」のテーマ I 「避難・緊急活動支援統合システムの研究開発」(研究責任者: NIED 臼田裕一郎)のサブテーマ 1-3「対話型災害情報流通基盤の研究開発」に位置づくもの。

\*2 SIP4D:「基盤的防災情報共有ネットワーク」

通称 SIP4D = Shared Information Platform for Disaster Management

災害対応に必要なとされる情報を多様な情報源から収集し、利用しやすい形式に変換して迅速に配信する機能を備えた、組織を越えた防災情報の相互流通を担う基盤的ネットワークシステム。

【お問い合わせ先】

AI 防災協議会

E-mail: [info@caidr.jp](mailto:info@caidr.jp)

HP : <https://caidr.jp/>